

1. 第1回WSと実証実験の状況

(1) 第1回ワークショップの結果概要について

開催日	平成19年(2007年)7月19日(木)
場 所	福祉会館・3階集会室
討議テーマ	課題と考えられる整備事例
参加人数	32名(事務局等20名)

4班にわかれて、意見交換を行いました。結果は以下の通りです。

① 岡町熊野田線について

歩車共存道路とする案について概ね了承を頂きました。

② 中桜塚第11号線について

歩車共存道路として整備する案が最も多くの賛成を頂きました。
但し、歩行者の安全性や違法駐車を増加を懸念する意見がありました。

③ 視覚障害者誘導用補助ラインについて

視覚障害者誘導用補助ラインについて概ね了承を頂きました。
高齢者等がつかず危険性を指摘する意見や、ラインの仕様等に対する提案を頂きました。

④ その他

違法駐車(荷捌き車両等)、自転車(マナーの悪さ・放置自転車の多さ)に対する課題が多数出されました。



各グループの討議の様子(1)



各グループの討議の様子(2)



グループ発表の様子(1)



グループ発表の様子(2)

(2) 実証実験について

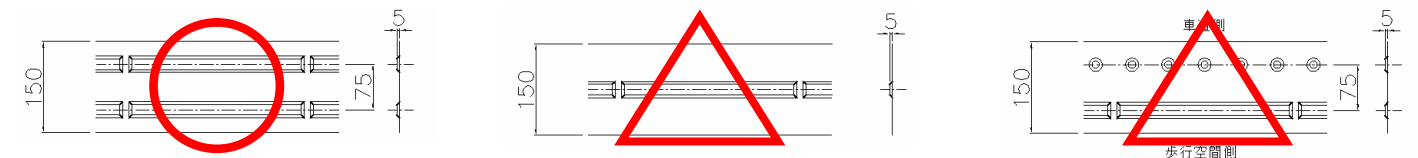
開催日	平成19年(2007年)9月7日(金)
場 所	障害福祉センターひまわり
参加人数	視覚障害者16名・車イス利用者1名

歩道のない道路における視覚障害者の円滑な移動を支援、補助する誘導方策の検討を目的としました。

① 誘導部分について

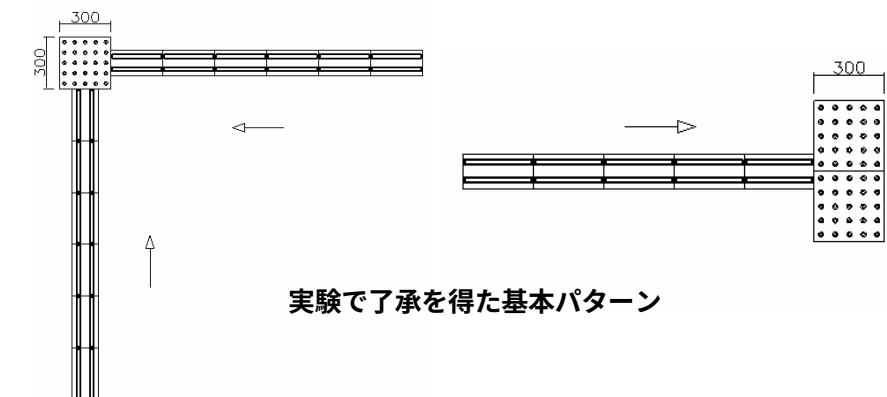
「2本線」、「1本線」、「1本線+点」の3パターンを調査しました。

3案の中では「2本線」がまだ利用できるという意見を頂きました。



② 警告部分について

車道との交差部や方向変化部に注意を促すための警告ブロック(点状)ブロックが設置されます。通常は60cmの幅が必要ですが、どの程度まで小さくできるかを伺いました。できるだけ広い方が良いが、30cmまでならなんとかわかるという意見を頂きました。



実験で了承を得た基本パターン



実験の様子(1)



実験の様子(2)



実験後の意見交換の様子(1)



実験後の意見交換の様子(2)

II. 整備内容（事務局素案）

■ 岡町熊野田線 整備イメージ

アスファルト舗装

現在のインターロッキング舗装をアスファルト舗装に変更します。これにより、車イス等がスムーズに移動できます。

カラー舗装

外側線の内側を車道とは異なる色にし、歩行者空間を確保します。

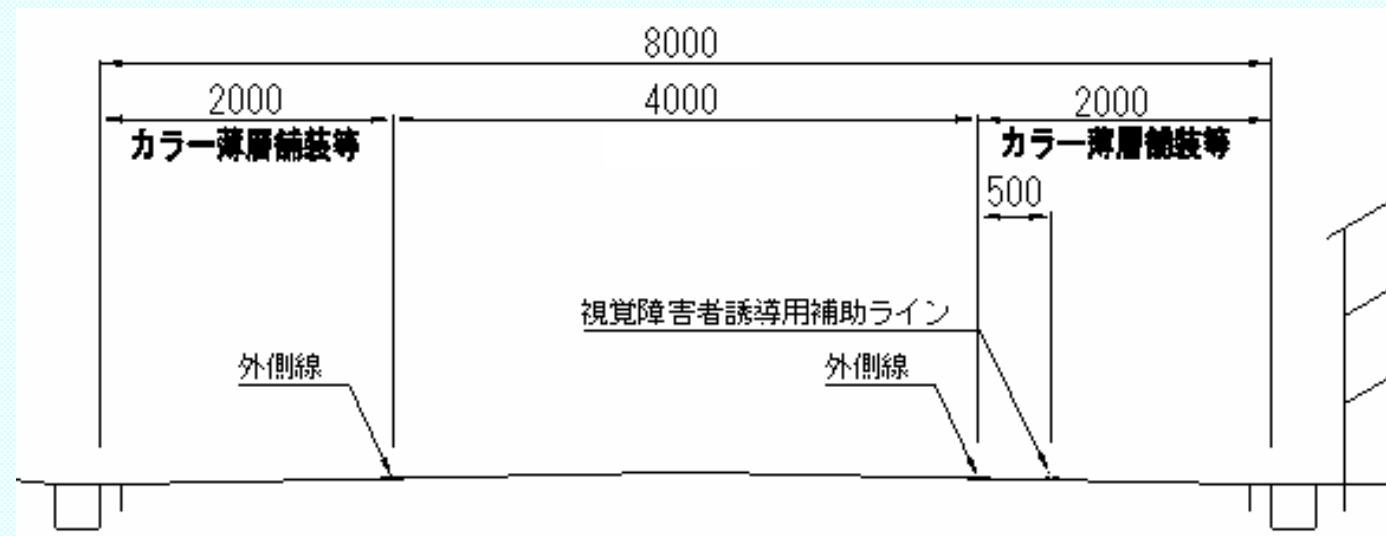
外側線

外側線

白線をひき、車道と歩行空間を明確に分離します。

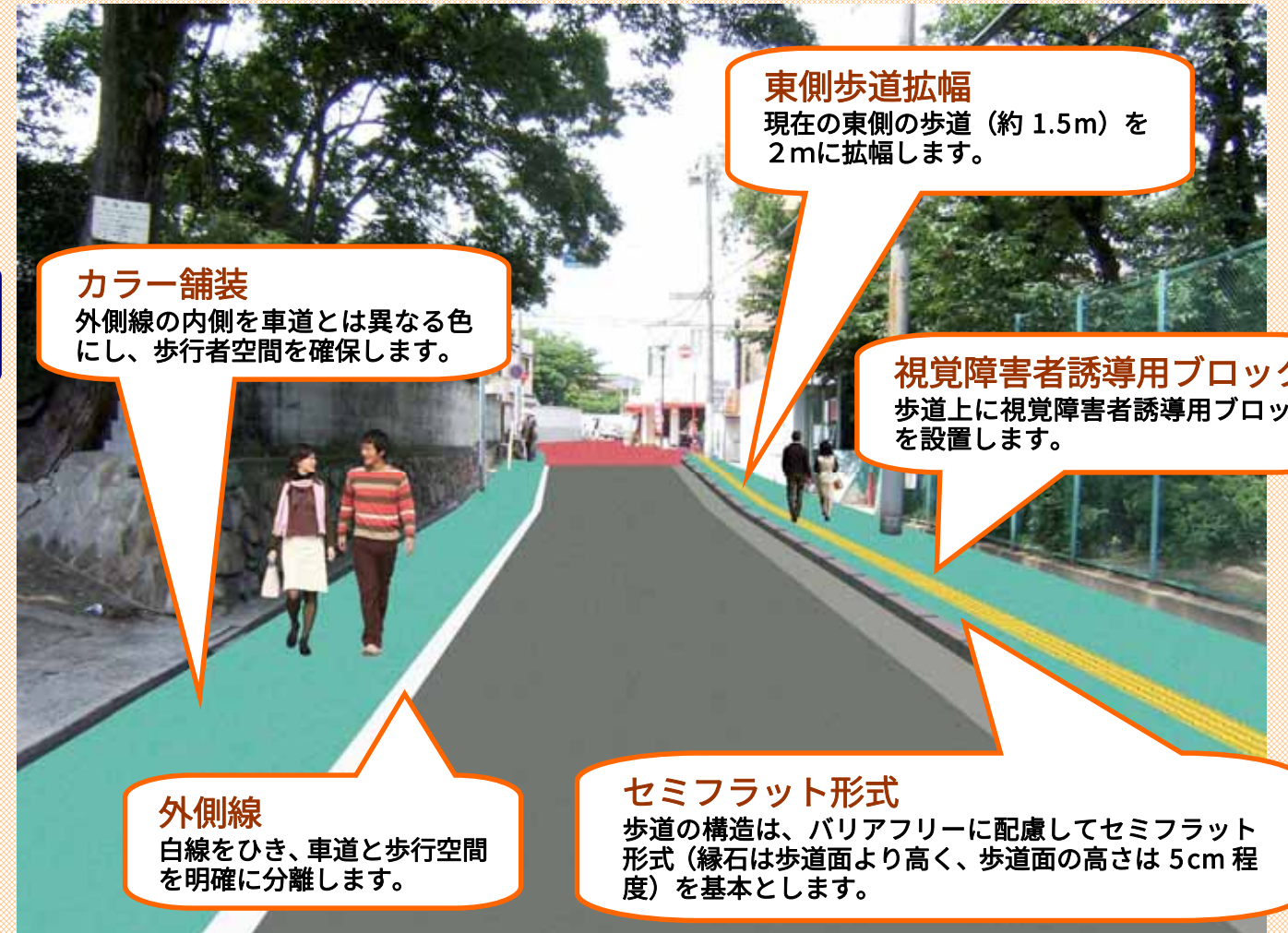
視覚障害者誘導用補助ライン

視覚障害者の円滑な移動を支援する補助ラインを南側に設置します。



※ 幅員構成については、警察と協議中のため変更することがあります。

◇ 中桜塚第11号線 整備イメージ



カラー舗装

外側線の内側を車道とは異なる色にし、歩行者空間を確保します。

東側歩道拡幅

現在の東側の歩道（約1.5m）を2mに拡幅します。

視覚障害者誘導用ブロック

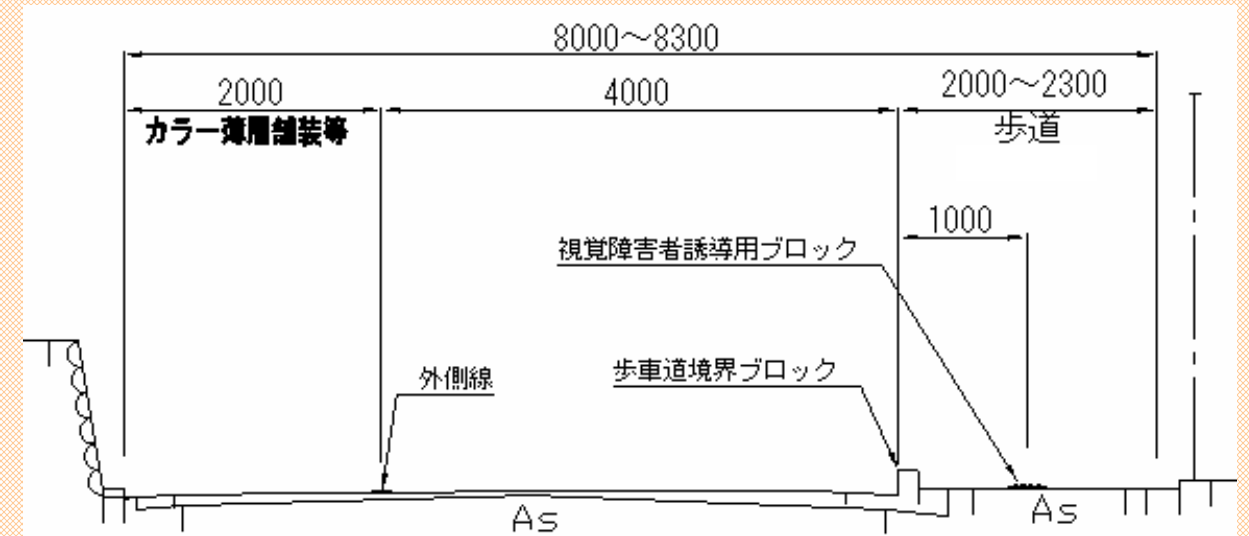
歩道上に視覚障害者誘導用ブロックを設置します。

外側線

白線をひき、車道と歩行空間を明確に分離します。

セミフラット形式

歩道の構造は、バリアフリーに配慮してセミフラット形式（縁石は歩道面より高く、歩道面の高さは5cm程度）を基本とします。



※ 幅員構成については、警察と協議中のため変更することがあります。

第2回 岡町の道路を考えるワークショップ (開催概要)

日時

平成 19 年 10 月 12 日(金) PM 2:00～4:00

場所

豊中市役所・第二庁舎3階大会議室

出席者

31 人(事務局等 12 人)

内容

1.開 会

2.説 明

- ・第1回 WS と実証実験結果の概要
- ・岡町熊野田線等整備計画（事務局素案）

3.グループ毎の意見交換と発表



3グループにわかれて、岡町熊野田線や中桜塚第11号線の整備計画の事務局素案について意見交換を行いました。

歩行者の安全性を確保する工夫をしてほしい、視覚障害者誘導用補助ラインを設置する際には路面との輝度比に気をつけてほしい、ハード整備だけでなく人の気持ちが大切といった整備に対する具体的な意見を数多く頂きました。

4.閉 会

このワークショップで頂いた意見をもとに、次回ワークショップで提示する整備計画案に反映させます。なお、第3回は当初11月30日に開催予定でしたが、警察協議の関係で、開催日が延期となりました。